

1

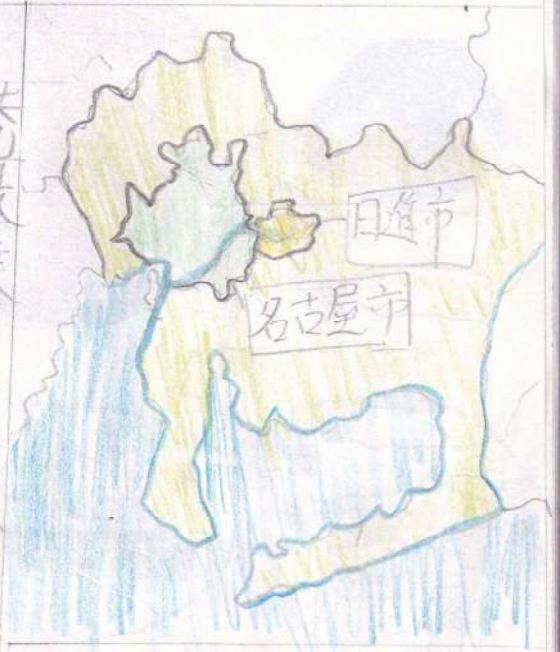
動機

ぼくは家の近くの天白川によく魚を取りに行っている。だから、天白川には、他にどのような生物がいるのか、どのように流れているのかを調べたいと思った。

予想 上流から下流にかけて水がまたがる

2 天白川の流域

天白川は、右図のように日進市から名古屋市の名古屋港に流れている。日進市には緑が多いが、名古屋港には工業などが多い。



天白川の上流



天白川の下流

4

生息する生物

天白川に生息する生物を上流、中流、下流で、生物を観察してみた。

(1) 在来種

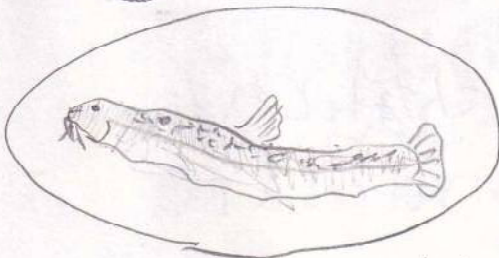
トノサマガエル
(上流)



スジエビ、ミナヌマエビ
(中流)



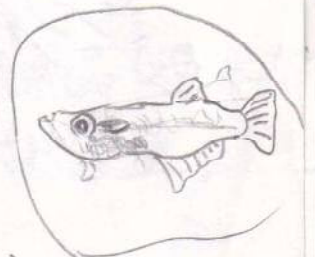
シオカラトンボ
のヤゴ
(上流)



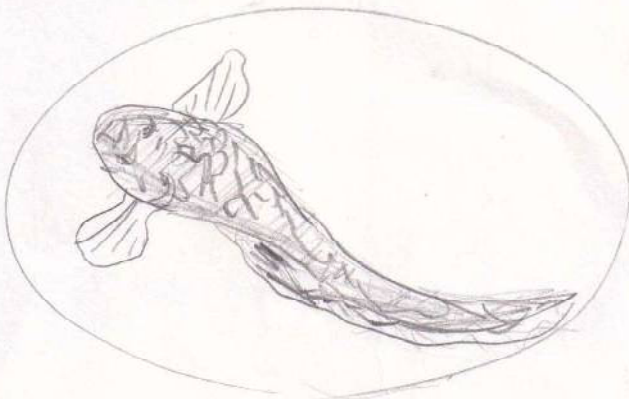
ドジョウ(中流)



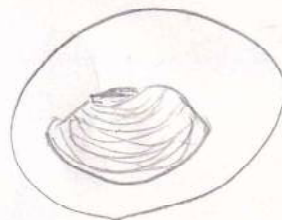
ヨシノボリ(中流)



メダカ(中流)



ナマズ(中流)



シジミ

(2) 外来種



ウシガエルの^のおたまじり



カダヤシ



ブルーギル



ミシシッピアカミガメ

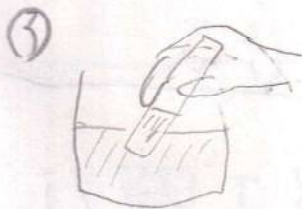
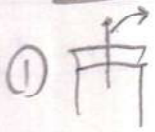
たじ



こんなにとれた。

5 C O D 調 査

調査のやり方



① ② ③ ④
① まず、チューブの先端のラインを引き、②の
空気を追い出して、③ 穴を水につけ、半分程
度水を入れかきまぜる。④ 所定時間の
で色を見る。



COD とは

パフテスト

化学的酸素消費量、水の汚れ(有機物を薬品(過マンガン酸カリウム)で化学反応させると消費される量。
数が多いほど水はきかない。

6 調査結果

	A 上流	B 中流	C 下流
水の色 におい	無色 でにおいなし	少しにごり いて においを少 し感じる	とほにごり いて とほいやな においを感 じる
水辺 自然	緑が多 自然が 豊か	緑はある	人工的な 水辺
ごみ	見あた らない	少しある	多い
におい	とほいい	少しにごり ている	とほにごり ている

	A	B	C
底の感はく	心地よい	ちょっとぬるぬるしてはる	入れなめた
油が泡	ない	少しある	多い
魚	たまに見かける	たくさんいる	たくさんいる
植物	たくさんはえてはる	緑がある	ない
川原の生物	いろいろな種類がはる	いろいろな種類がはる	たまに見る
外来種	少ない	多い	やや多い

	A	B	C
COD	8	10	20
透視度	70	33	30

7 考察

下流に行くほどきつくなることがわかった。
 その理由は、下流に多い、工場からの水のおよ
 げや、家のまわりのどぶのおよげ、たぐのしなどだ
 と思う。下水処理場やごみ処理場についても
 勉強してみたい。

8

感想

予想どおり、下流より上流の方がきれいだった。
いつもみている生物よりもたくさんつかまえて
かんさつできてうれしかった。ぼくは、少しでも天白川をき
れいにするため、たぐのこしを水に流さず、ごみまどが
にすかないようにしたい。また、毎日つかう水も大切に
つかいたい。



コイ